

乙 第 号

佐々木 義之 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	浅田 秀夫
論文審査担当者	委員	教授	伊藤 利洋
	委員(指導教員)	教授	庄 雅之

主論文

Significance of Herpesvirus Entry Mediator Expression in Human Colorectal Liver Metastasis

ヒト大腸癌肝転移における HVEM 発現の重要性について

Yoshiyuki Sasaki, Daisuke Hokuto, Takashi Inoue, Takeo Nomi, Takahiro

Yoshikawa, Yasuko Matsuo, Fumikazu Koyama, Masayuki Sho

Ann Surg Oncol. 2019 Jul 16. doi: 10.1245/s10434-019-07625-z. [Epub ahead of print]

## 論文審査の要旨

Herpes virus entry mediator (HVEM)は、単純ヘルペスウイルスが細胞内に侵入するための receptor として発見され、近年は腫瘍における発現が注目されている。本研究では、ヒト大腸癌肝転移における HVEM 発現の意義について検討している。

2004 年～2014 年に当院消化器外科にて大腸癌肝転移に対して肝切除を施行した 103 症例の切除検体を用いて、ヒト HVEM および CD4、CD8、CD45RO の免疫組織学的染色を行い、HVEM 高発現群、低発現群の 2 群に分類し、臨床病理学的因子や予後との関連を統計学的に検討した。その結果、HVEM 高発現群では、CD8 および CD45RO 陽性リンパ球の浸潤が有意に低下していた。また、全生存期間の比較では、HVEM 高発現群は有意に予後不良であり、多変量解析で独立予後不良因子であることが判明した。

本研究は、HVEM 発現が大腸癌肝転移の腫瘍免疫において重要な役割を果たしている可能性を示唆しており、今後、大腸癌肝転移の新規予後予測マーカー、治療標的として臨床応用が期待される。

## 参 考 論 文

1. Anorectal Cancer in Crohn's Disease Has a Poor Prognosis Due to its Advanced Stage and Aggressive Histological Features: a Systematic Literature Review of Japanese Patients.

Ueda T, Inoue T, Nakamoto T, Nishigori N, Kuge H, Sasaki Y, Fujii H, Koyama F.

J Gastrointest Cancer. 2018 Nov 26. doi: 10.1007/s12029-018-0180-6. [Epub ahead of print]

2. Long-Term Survival of a Patient with Sigmoid Colon Cancer with Multiple Visceral Metastases.

Sasaki Y, Nishigori N, Koyama F, Ueda T, Inoue T, Kawasaki K, Obara S, Nakamoto T, Nakamura Y, Fujii H, Nakajima Y.

Gan To Kagaku Ryoho. 2016 Nov;43(12):2444-2446

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに消化器機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和元年 11 月 12 日

学位審査委員長

皮膚病態医学

教授 浅田 秀夫

学位審査委員

免疫学

教授 伊藤 利洋

学位審査委員(指導教員)

消化器機能制御医学

教授 庄 雅之